

東京大学SSJデータアーカイブ 2020年利用者アンケート 結果概要

2021年3月

東京大学社会科学研究所

附属社会調査・データアーカイブ研究センター

SSJデータアーカイブ

はじめに

東京大学 SSJ データアーカイブは、ご利用者とデータ寄託者の皆様のご協力のもと、1998年の設立よりこれまで順調に拡大を続けてまいりました。2010年からは文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」としての活動を開始し、現在は2,000を超えるデータセットを収集・提供するに至っております。また、2014年2月からデータの利用申請をすべてオンラインで行えるようにシステムを改修するなど、データアーカイブの利用環境向上をはかっております。

この度、SSJデータアーカイブをご利用の皆様にご利用の状況とご意見をいただくことを目的として、利用者アンケートを実施しました。アンケートにご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。簡単なながらアンケートの結果概要をお知らせします。

いただいたご意見は、SSJデータアーカイブの利便性の向上、研究支援機能の強化に反映させたいと考えております。今後ともSSJデータアーカイブをよろしく願いいたします。

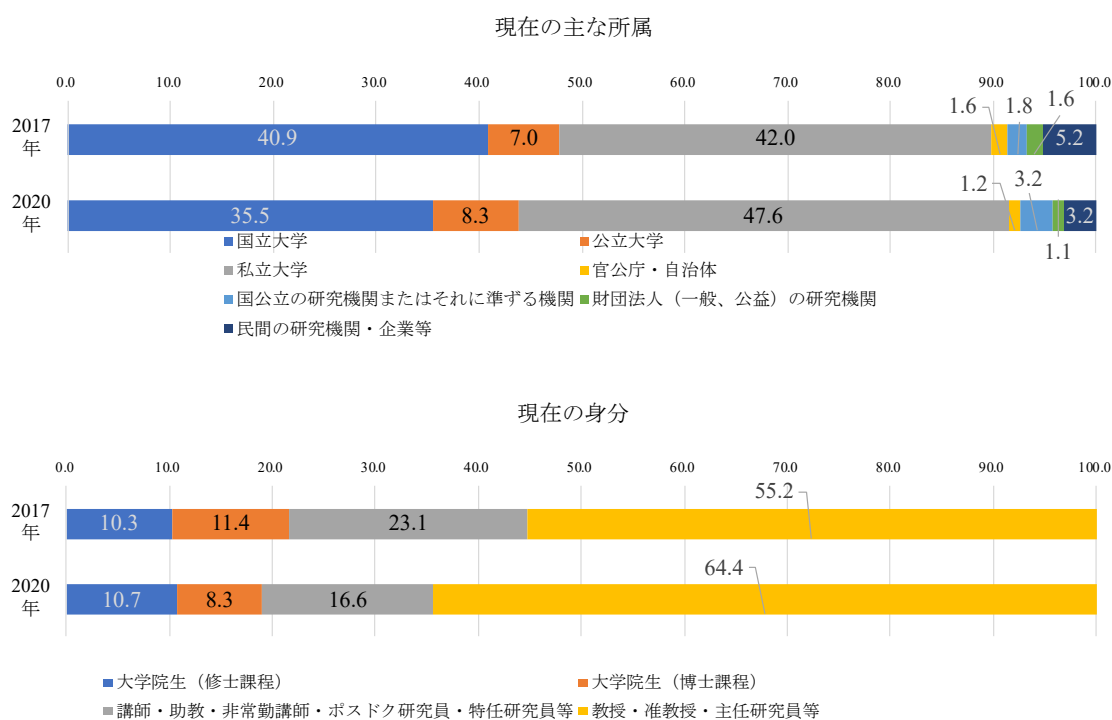
1. 調査方法

調査は2020年10月1日現在、SSJデータアーカイブのオンラインデータ申請システムであるSSJDA Directに利用者として登録されている方を対象として、電子メールにて調査依頼状を送りました。配信先不明で到着しなかったものを除き、2,109通のメールが配信しました。そのうち36.0%にあたる760名から有効回答をいただきました。調査期間は、2020年10月6日から10月23日として、SSJDAが保有する調査システム(LimeSurvey)を用いて実査を行いました。2015年と2017年においても同様の調査を実施していますが、それぞれの回収率は26.9%と22.8%でした。今回の調査は例年よりも多くの方々にご対応を頂いてお

ります。本調査にご協力いただきまして、改めて深く御礼申し上げます。

2. 回答いただいた方について

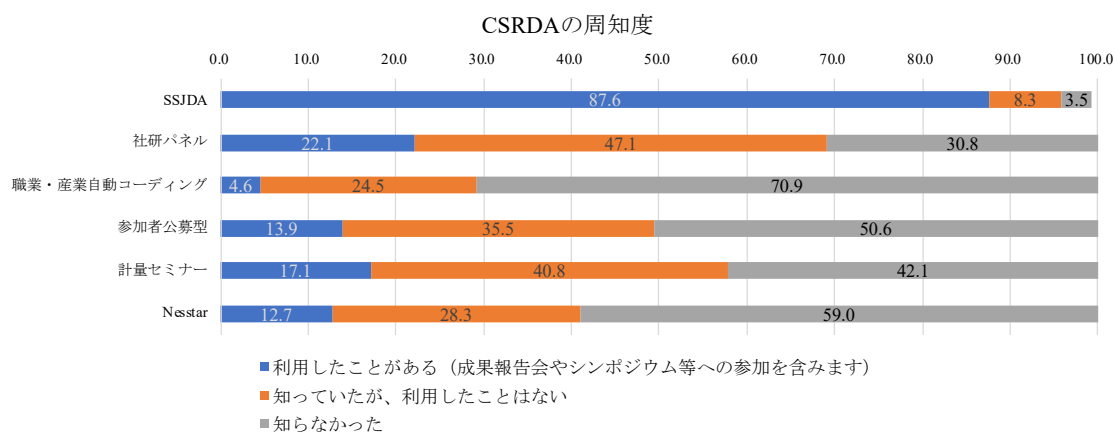
回答いただいた皆様の9割程度が大学，1割が国公立や民間の研究機関等の所属でした。大学の構成について2017年の構成と比較すると，国立大学が約5ポイント減少しているのに対して，私立大学が5ポイント程度上昇しています。また，所属先での身分は2割程度が大学院生（修士課程と博士課程），2割弱が講師や助教等，6割程度が教授や准教授等という構成でした。所属先の身分については，2017年と比べると，教授や准教授等の比率が9ポイント近く増加しています。



ご所属の学会については，社会科学系の国内学会では「日本社会学会」(26.1%)，「日本経済学会」(20.1%)，「日本教育社会学会」(11.5%)，「数理社会学会」(9.7%)，「日本家族社会学会」(9.0%)が比較的が多いことがわかりました。一方，選択肢に挙げた以外の学会に所属されている方が半数以上にのぼりました。例えば，「社会政策学会」，「日本公衆衛生学会」，「日本財政学会」，「日本社会心理学会」や「日本人口学会」などがそれに該当します。SSJデータアーカイブは社会科学の各分野をはじめとして広く学際的に利用されています。

3. 社会調査・データアーカイブ研究センター(CSRDA)の事業の周知度

SSJ データアーカイブを運営する、東京大学社会科学研究所附属 社会調査・データアーカイブ研究センター(CSRDA)が実施、運営している他の事業について知っているか、または利用したことがあるかを質問しました。



「利用したことがある」の割合が最も高かったのは、「SSJDA」(87.6%)であり、続いて「社研パネル調査」(22.1%)となっています。社研パネル調査については、「知っていたが、利用したことはない」の割合が47.1%となっており、知っている人を合わせると回答者の69.2%ほどにのぼりました。

「参加者公募型二次分析研究会」「課題公募型二次分析研究会」は、参加したことがある人はそれぞれ13.9%と17.1%となっており、「知っていたが、利用したことはない」も含めるとおおよそ半数となっていることがわかります。この値は前回および前々回の値よりも高くなっております。

春と夏に開催している「計量分析セミナー」は、参加したことがある人は17.1%となっています。2021年3月には、STATAやRによる二次分析の入門編、Rで学ぶ統計的因果推論や機械学習の入門、学問の自由と計量分析などのコースを準備しています。初のオンライン開催となり、多くの方々にご参加頂いています。

2014年1月より本格運用を開始したウェブ上のリモート集計システム「Nesstar」は12.7%の方が利用していますが、認知も含めてまだ高いとはいえない状況です。今後、CSRDAではオンラインによる集計機能を強化していく予定であり、授業や演習等においてもご利用いただけるようにより使いやすい仕様を構築することに取り組んでいます。

4. SSJ データアーカイブの研究目的での利用について

✚ 研究目的でのSSJデータアーカイブ利用経験

SSJ データアーカイブを研究目的で利用したことがある方は 512 人（有効回答の 69.4%）でした。現在の身分別にみると、教授・准教授等では 62.4%，助教・講師等では 83.3%，大学院（博士課程）では 96.7%，大学院（修士課程）では 75.6%の方が研究目的利用をした経験がありました。前回調査に比べると、SSJDA に登録している大学院生の利用比率が顕著に上昇していることがわかりました。

✚ 成果の論文化について

SSJ データアーカイブの目的のひとつは、利用が論文、学会報告等の研究成果につながるよう研究支援をしていくことにあります。そこで、研究目的で SSJ データアーカイブを利用したことがある方に、これまでにデータ利用の成果を論文等のかたちで公表・公開したことがあるか、また、公開したことがない場合はその理由について質問しました。

成果の公開につながった経験のある方は304人（39.2%）でした。現在の身分別では、成果の公開につながった経験のある方の割合は、教授・准教授等では 66.6%，助教・講師等では21.2%，大学院生は（12.2%）となっていました。

一方、成果につながらなかった理由については、半数以上が「現在分析、執筆、投稿中である」と回答しており、今後成果の公表につながっていくことが期待されます。他には「データを分析したが思うような結果が得られなかった」「もともと成果をまとめたり公表する予定ではなかった」などの理由がみられました。

いずれにしても、成果物の数は年々上昇している傾向です。研究者による学術論文はもちろんですが、学部学生による卒業論文の数がここ数年で顕著に増加しています。加えて、講義や演習では継続的に利用していただいています。最後にご紹介する自由回答の記述欄では、大学の授業で利用しやすいとの意見を数多くいただいています。

また、CSRDAでは、査読付きの学術論文として登録された成果物を対象として、「優秀論文表彰」を行っています。近年の受賞者をみると、国際的な学術雑誌で掲載された論文が表彰されていることからわかるように、成果物の水準は年々高まっています。このことは、当アーカイブが保有するデータによる二次分析の研究論文が、国際的に通用しうるデータセットとなっていることの証左だと考えています。

5. 教育目的での利用について

SSJ データアーカイブの教育目的利用が可能な教授，准教授，講師，助教など教員身分をお持ちの方のうち，教育目的で SSJ データアーカイブを利用したことがある方 352 人（教員の 59.2%）に，これまでの教育目的利用の状況についてたずねました。

✚ 教育目的利用の状況

実際にデータを利用するにあたっては，「受講生が各自の研究関心にしたがってデータを分析する」の方法が最も高く 76.4% となっていました。この値が高い理由の背景には，学部学生の卒業論文や個別の演習課題にデータを用いて利用いただいていることが考えられます。それ以外の方法としては，「授業中に授業中にデモンストレーションとしてデータを示したり，分析した」が 36.4%，「教員の指示する方法で受講生がデータを見たり分析してみる」が 31.3% となっていました。

教育目的利用の方法	人数 (%)
授業中にデモンストレーションとしてデータを示したり，分析した	128 (36.4%)
教員の指示する方法で受講生がデータを見たり，分析した	186 (31.3%)
受講生が各自の関心にもとづき分析した	269 (76.4%)

注：複数回答

✚ 教育用データへの要望

教育現場で SSJ データアーカイブを利用するにあたっての要望では，教育用利用可のデータセットを増やしてほしいという要望が最も多く挙げられました。それに続いては，「研究用とは別に，教育用データセットの作成」や「データのすべてを教育利用可」の要望が高くなっています。東大社研パネル調査については，将来的に教育用データセットを準備することについても動き出しています。いずれにしても，データを教育目的で幅広く使えるようにすることが，今後の SSJDA にとって必要であることが改めてわかりました。これを受けて，データの寄託時や寄託されているデータを教育用に利用いただくことを念頭において取り組んで参ります。

教育用データへの要望	人数 (%)
データのすべてを教育利用可にしてほしい	133 (37.8%)
教育利用ができるデータの数を増やしてほしい	235 (66.8%)
研究用とは別に、教育用データセット(変数を絞ったもの等)を作成してほしい	149 (42.3%)
公開データを用いた教科書を出してほしい	128 (36.4%)

注：複数回答

6. SSJ データアーカイブの意義について

社会調査データアーカイブに想定されている意義について、皆様が実際どのように感じていらっしゃるかを伺いました。

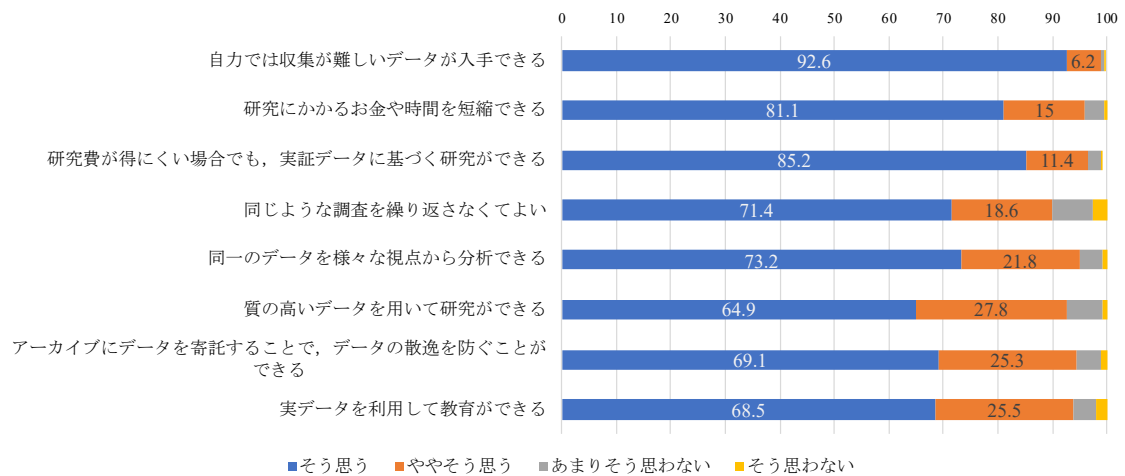
ほとんどの項目で「そう思う」「ややそう思う」と感じている方の割合が9割を超え、その意義について利用者には高く評価いただきました。具体的には、「自力では収集が難しいデータが入手できる」、「研究にかかるお金や時間を短縮できる」や「研究費が得にくい場合でも、実証データに基づく研究ができる」はとくに高い値となっています。

一方、「質の高いデータを用いて研究ができる」の「そう思う」の比率は相対的に低くなっています。この点については、データを使ってどのような論文が水準の高い学術雑誌に掲載されているのかという点を今よりも積極的に発信することが必要だと感じています。この点については、すでにSSJDAに成果物としてご登録いただいているものを発信すると同時に、データを利用して成果が刊行された際にはぜひともSSJDAへ登録していただきたいと考えています。

他にも、自由記述欄への回答で「自分で調査を設計する際に、調査票や調査方法を参考にできる」「データが公開されることで分析結果が再現可能となる」「多様な調査が掲載されており、学生が調査について学び議論するのによい」等の意見が複数みられました。

データアーカイブ利用者はもちろんのこと、まだ利用されていない方、データアーカイブの存在を知らない方にも意義を理解していただけるよう、活動を続けていきたいと考えています。

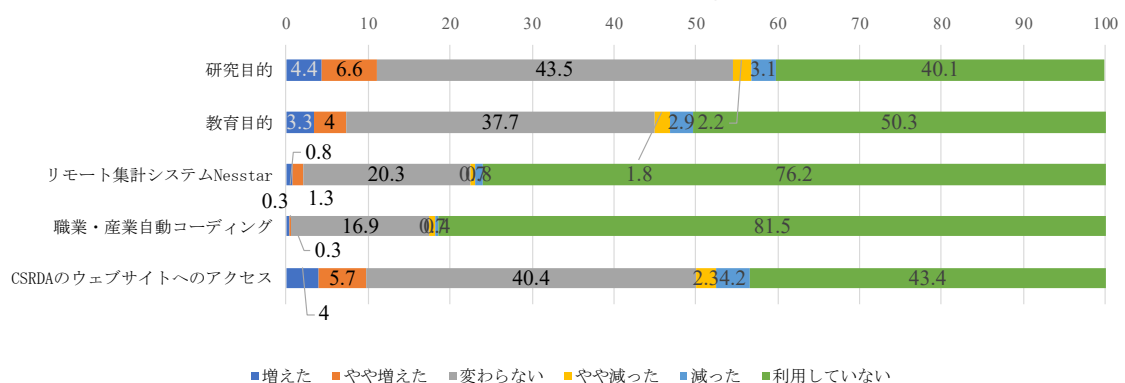
SSJデータアーカイブに対するご意見



7. 新型コロナウイルス感染症下におけるご利用状況

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大にともなってSSJデータアーカイブにも大きな影響がありました。2020年4月は多くの職員が自宅待機、または在宅勤務となったために、データの提供が一時的に滞りました。5月以降は段階的にデータの提供体制を立て直しましたが、ご利用の皆さまには大変ご不便をお掛けしたかと思えます。そこで、感染症下における当センターによる提供コンテンツのご利用状況について皆様のご意見をうかがいました。

Covid-19下におけるCSRDAの利用状況



この結果をみると、研究目的や教育目的での利用は「変わらない」あるいは「利用していない」が相対的に高い値となっています。一方、それぞれの「増えた」の比率は4.4%と3.3%となっていることを考慮すると、ご利用いただいている皆

様にはそれほど大きな変化はなく、継続的に利用いただいたと評価できるかもしれない。とはいえ、「増えた」や「やや増えた」の比率はいずれの項目においても低い値となっており、感染症の拡大によって当センターの役割が高まったとまではいえない状況だと認識しています。

来年度においても対面による調査や授業には何らかの制約がかかることを考えると、オンラインによってデータを提供するアーカイブ機関の役割は高まっていくと思います。そうした期待に応えることができるように、当センターの体制を強化していきたいと思います。

8. SSJ データアーカイブ全般に関するご意見（自由回答から）

自由回答では大変多くの貴重なご意見を頂戴することができました。すべての回答を拝読しております。SSJ データアーカイブを評価・期待していただくご意見に加えて、改善すべき点を具体的に指摘いただいています。例えば、前者としては、「世界の社会科学研究のハブとして期待している」、「過去の調査を埋もれさせないための取り組みに期待している」、「データアーカイブが今日の研究や教育にはなくてはならない存在になっている」、「データ申請が書面や CD-R 送付だったころから使っています。年を追うごとにどんどん便利になっている」等のご意見があります。

逆に改善すべき点としては、「STATA 等のデータ形式で配付してほしい」、「（継続調査について）第一回調査は利用可能なのに、その後の回の調査が利用できなかったりする。」、「自由記述のテキストデータなども充実させてほしい」、「教育目的での申請から承認までのシステムをよりスムーズにしてほしい（教育指導員の承認プロセスの煩雑さ）」等のご意見を頂戴しております。

データ形式については、2021 年 1 月以降に、STATA 形式のデータ提供を順次開始しております。データ提供のシステムについては毎年改善を重ねておりますが、2021 年度以降においては「特別データの申請」や「受講者リスト」の運用や登録のシステムを、利用者の皆様にとってより使いやすいシステムとなるように改修する予定でございます。上記以外についてもいただいたご意見を踏まえて、時間をかけて改善していく所存でございます。

9. さいごに

多くの方から、SSJ データアーカイブへのご支援の声をいただきました。また、より有意義にデータアーカイブを利用できるように他の利用者がデータアーカイブをどのように活用しているかを知る機会がほしいなど、研究コミュニティの活性に当研究センターが貢献できる点が多くあることをご指摘いただきました。

SSJ データアーカイブ研究センターでは、2018 年度より新たに東アジア研究を行う若手研究者の育成と国際ネットワーク強化のために継続的なセミナーを開催しています。また、日本学術振興会の委託事業「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」（2018 年度～2022 年度）により、海外から講師を招聘し、国際ワークショップを不定期に企画しています。これらの取り組みはいずれも開始したばかりではございますが、国内外の研究者を結びつけるコミュニティを形成する一助となるように続けて参ります。

いただいたご意見は今後の SSJ データアーカイブの運営に反映していきたいと考えています。改めまして、ご協力いただきました皆様にはご協力に感謝申し上げます。今後とも SSJ データアーカイブへのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。